

Mutsumi

睦眉会会報

発行者

徳島大学睦眉会

徳島大学医学部保健学科同窓会

徳島県徳島市蔵本町3-18-15 〒770-8509

徳島大学医学部保健学科内

TEL/FAX:088-633-9067

E-mail: mutsumi.jim@gmail.com

発行責任者 橋本公子



保健学科長あいさつ

睦眉会の会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。日頃は本学の教育や研究について多大なご理解とご支援を賜り、本当にありがとうございます。また、保健学科における国際交流事業にもご理解いただき、心温まるご寄附をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症蔓延のために、令和元年度の卒業式は中止となり、令和2年度の入学式も中止となりました。講義も密をさけるために多くの対面講義が遠隔講義となり、学生も教員もこれまでに味わったことがない講義形態に最初は戸惑いを感じていました。しかし、徐々に遠隔講義やWeb会議に順応できるようになってきました。医療系の学科にとって演習や実習は欠かすことができませんが、感染に最大限の配慮をしながら、できるだけ対面でできるように工夫しています。12月現在、まだ感染が拡大する状況が続いていますが、新しい時代を見据えた教育方法を模索しながら、地道に教育や研究を続けていきたいと考えています。一日も早く収束してほしいと願っています。

その様な中、8月には大学院の入学試験が行われました。令和3年4月からは入学された皆さんとともに活発な研究活

徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学教育部長

安井 敏之



動を行っていきたくと思っています。また、看護リカレント教育センターが設置され、4月から在宅ケア認定看護師をめざす学生を受け入れます。特定行為研修を組み込んだ在宅ケア認定看護師教育課程は、徳島大学が全国で初めての教育機関になります。社会に開かれた高等教育機関をめざして認定看護師の養成を開始し、役割や機能を拡充して大学と地域を往還する教育システムを確立していきたいと考えています。興味がある方は看護リカレント教育センターのホームページを開いていますので、ぜひご覧ください。

2019年の国家試験の合格率は、看護師97.3%、保健師98.3%、診療放射線技師90.2%、臨床検査技師94.4%、助産師100%と高い水準であり、卒業生は全国で活躍しています。大学院生も、これまでに博士前期課程261名(保健学修士125名、看護学修士156名)、博士後期課程42名が修了し、医療や教育・研究分野で活躍しています。徳島大学医学部保健学科および大学院が益々発展していきますよう、同窓会の皆様にはさらなる関心を寄せていただき、ご支援・ご高配をいただけますようお願いいたします。

会長挨拶

— 新型コロナウイルス感染症との戦いの中で —

春寒の候、睦眉会の会員の皆様はご健勝にお過ごしでしょうか。

日頃は大変お世話になっております。

昨年来の新型コロナウイルス感染症の拡大は収束の気配を見せず、全国では感染者の重症化・医療崩壊・社会経済への影響・失業者の増加・家庭崩壊などなど、見えない感染源は人間社会に大きな影響を及ぼしています。

その中でWithコロナの時代を生き抜く為に、私達には正しい知識と理性的な行動が望まれています。懸命に新型コロナウイルスと格闘する研究者や、医療現場で防波堤となって人命を支えていただいている私達の同窓生の姿、教育現場で新たな教育方針に向けて日夜努力されている同窓生の姿に思いを馳せ、感謝し、一丸となり感染対策に努め、復興と再生への挑戦の気持ちを忘れずこの時期を乗り越えてまいりましょう。

令和2年度の睦眉会の事業にも、COVID-19感染症の影響がありました。会議は対面ではなくメール会議となり、総会は、7月29日(水)にメール会議によるみなし総会と致しました。その議事内容は今回の会報誌に掲載させていただいています。なお、睦眉会の活動状況は、ホームページ (<http://mutsumi.web5.jp>) を通じて情報発信しておりますので是非ご覧ください。

徳島大学睦眉会会長
徳島大学医学部附属助産婦学校10期生

橋本 公子



web5.jp) を通じて情報発信しておりますので是非ご覧ください。

現在の会員数は令和2年4月現在で7,276名です。事業推進に当たりメールで行われていた会議を現在はオンライン会議としてコロナ禍に対応しています。

今年度の事業として予算化した保健学科/大学院保健科学教育部への国際交流基金の寄付金は、現地に於いての相互交流が中断されており、本基金による支援が出来ておりません。この事業は、グローバル化時代を担う人材育成事業ですので、ポストコロナの新たな形を模索し継続的に支援を続けてまいります。引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年に卒業され正会員となられた皆様は、ご卒業から早1年となりましたがお元気でしょうか。卒業後のお元気にご活躍されている近況を母校に是非ご一報ください。

心よりお待ちしております。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束と、安寧で安心できる社会環境の回復が待たれます。どうぞ皆様、ご自愛ください。

同窓生通信

希望をつなぐ 地域密着エリアマネージャー

徳島大学医学部附属看護学校27期生
徳島大学医学部附属助産婦学校22期生
公益社団法人 徳島県看護協会

杉原 治美

平成29年に徳島大学病院を退職後、平成31年4月から徳島県看護協会で東部の地域密着エリアマネージャーとして、看護協会会長はじめ睦会会の先輩・同級生・後輩と共に働いています。主な業務は、地域包括ケアシステム推進参画事業として地域内の看護職連携の推進、資質の向上と確保対策があります。この職場に復職を決めたのは、平成7年に看護協会の先駆的保健活動定着化モデル事業で三職能(看護師、助産師、保健師)の連携による「地域から施設へ、施設から地域へのネットワークづくり」を行った時の保健師の方が、西部エリアマネージャーとして活躍されており、私にも大学病院ではできなかった地域のネットワークづくりができるのではと考えたからです。

動くエリアマネージャーとして、地域の看護職の現状やニーズの把握に、施設や保健福祉機関を訪問しています。また、看護師不足が全国的にも問題になっています

が、復職研修やハローワークでの看護職相談もしていません。地域を知ることによって多種多様な働き方と看護職の連携・復職支援の重要性を感じているところです。色々な機会に同窓生の皆様にお会いすることがありますが、お気軽にお声がけやご相談いただけたら幸いです。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、地域内の看護職連携(看看連携)の推進や在宅・地域の人々をつなげる活動、ネットワークづくりなど、なかなか思うような活動ができませんでした。これから少しずつでも、医療と介護、保健・福祉領域で働く看護職が、相互に連携しながら「その人らしい在宅生活を支援する」ために「生活を支えるケア・つなげるケア」ができるようコミュニケーションを

大切にしたい連携の輪ができたと思います。いつも喜んで感謝しながら「希望」を持ち、笑顔を忘れず進めるようご支援よろしくお願いします。看護協会の同窓生(筆者は前列左から2人目)



診療放射線技師と医工連携の 明るい未来を信じて

徳島大学医学部保健学科放射線技術科学専攻5期生
公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院医療技術部門放射線技術部

福永 正明



2010年3月に徳島大学医学部保健学科放射線技術科学専攻を卒業後、岡山県倉敷市の倉敷中央病院に診療放射線技師として勤務しています。2015年4月からは、県立広島大学大学院の修士課程に入学し、2017年3月に修了しました。2018年4月から金沢大学大学院の博士後期課程に在籍しております。現在の私の業務は、診療放射線技師としてX線CT検査、一般撮影、血管造影などを行いながら、本年度から発足した医療イノベーション推進室のスタッフを兼務しております。医療イノベーション推進室の主な業務は、地域の企業と医工連携しながら院内の課題解決に向けた活動を行い、医療イノベーションに資する情報収集や推進活動を

行うことです。私は医療イノベーション推進室の活動を通して、診療放射線技師として関わる業務以外にも、病院内のあらゆる職種の方と接することで視野が広がり、病院全体の業務内容を理解することができました。

院内の課題解決要望の多くの案件は、情報システムに関連する内容です。私もプライベートでは、スマートフォンやタブレットを使っていますが、いざ、業務中となると、PHS、紙運用による伝達方法を使用します。一方、ファーストフード店では、店内の席に座ってスマートフォンで注文すると定員さんがハンバーガーを持ってきてくれます。また、衣料品店では、数着の衣服を箱に入れるだけで、その場で合計金額が瞬時に表示されません。現在、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い皆様は、とても大変な環境下で業務をされていると思います。しかし、このような環境下だからこそ、様々な改善点が浮き彫りとなり、アイデアも浮かんでくるのではないかと思います。私も今できることを少しずつでもコツコツやっていたらと思っています。先輩、後輩の皆様方には、体調を崩されませぬようにくれぐれもご自愛ください。今は久しぶりに大学の同窓生で集まりたくても集まらない状況なので、できましたらオンライン同窓会を提案いたします。

白衣を着るあなたへ

徳島大学医学部附属臨床検査技師学校 7 期生

井上 千尋



COVID-19が席卷し医療従事者の献身に注目が集まる昨年春、私は長年の検査技師生活に終止符を打った。そして今、来し方を振り返る。

最初は夢のような6年間だった。新設の高知医大検査部の立ち上げに、卒業したばかりの新米が怖いもの知らずで飛び込んだ。当時最先端の検査システムと患者さんの顔の見えるチーム医療を経験し、私の医療人としての原点がそこで培われた。

帰郷し入職したのは徳島大学病院検査部。高知医大とのギャップに戸惑い、虚無感さえ抱く日々。そんな時与えられた研究テーマで、生まれて初めての動物実験を経験した。目の前で扱われる命。衝撃だった。

断末魔というにはか細くその時に
兎はくうと小さく啼けり

自分が身を置く世界が、かけがえのない命と向き合う真剣勝負の現場なのだと改めて感じたのは、ICUへ検査に赴いた時だった。

意識なき痩せた男の枕辺に

ピースサインの子の写真あり

毎日、顕微鏡下の異常細胞と格闘し、時に勝利し時に打ち負かされ、医療とは終わりのない闘いの世界だと痛感した。

花の名の少女を一人

白血病リストに加ふる立春の夜

検査技師としてキャリアを重ねる中で、家族に向き合う時間は制限され、胸中穏やかならぬ日もあった。けれど、社会人となった娘に言われた。「今ならママを理解できるよ。ありがとう。」いえいえ、こちらこそありがとう。あなたたちの理解と協力がなければ、私は使命を果たせなかった。

凍てつく夜ゆえ街のいくつ灯の中に

わが家のあることのうれしさ

振り返ればこれまで多くの人に出会い、助けられ、この道を歩んでこられた。心から感謝申し上げる。そして私の後に続く人たちへ。忘れないでいてほしい、大切なことを。あなたは誰のために白衣を着ていますか？

闘いの果てに症例として語る

あまたの逝きし人を愛しむ



助産師としてあゆむ

徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻 2 期生
あゆみマタニティルーム

永井 人美



同窓生の皆様お元気でしょうか。私は平成5年に徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を卒業しました。17年間看護師として勤めた後、二児の母としての助産学生時代は、多忙でしたがとても充実して希望に満ちた1年間でした。卒業

後は阿南共栄病院に10年間勤務し、退職後は保健センターに1年6か月間非常勤として勤務したのち開業して13年目になります。

阿南共栄病院では、助産師としての出発が遅れた分、先輩達に早く追いつこうと休日はよく研修に通いました。母児同室やマタニティーヨーガに取り組んだり、母乳育児や分娩に熱くなっていた記憶があります。

開業して乳房ケアや新生児訪問をしながら、香川県の

助産院に7年間、週1回の非常勤として勤務をしました。助産院では妊婦健診、分娩、産後ケアと一連に関わることができ、貴重な経験をさせていただきました。自分が助産院で出産しており大変興味がありました。

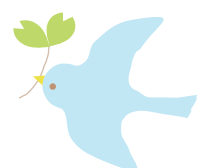
近年ライフスタイルの変化に伴い、女性のからだも変化して妊娠・出産のトラブルが増えてきました。お母さんの体作りや赤ちゃんのために役立つ骨盤ケアや赤ちゃんケアを日々とりいれ学んでいます。

最近、市町村の産前産後の子育て支援で助産師相談やケア・地域の産前教室も加わり、山中や海辺を車で走ることが増えてきました。自然の中のドライブ、これもまた楽しみになっています。

2年前に“あゆみマタニティルーム”開業10周年を機に施設を新設しました。ここを拠点に地域の受け皿として、お母さんや赤ちゃん達がほっこりできて、笑顔で元気になるお手伝いができると思います。

我が人生まさしく“大器晩成型！”

これまでかかわった方達に感謝しながら、亀のごとくのろいあゆみですが、生涯現役でゴールをめざしていきます。



活躍する卒業生



徳島大学ホームページ、同窓会連合会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。



徳島大学医学部附属助産婦学校 昭和43年卒業
元日本助産師会徳島支部長
一般社団法人徳島県助産師会 助産師

稲井 道子 (いない みちこ)

稲井道子氏は、昭和43年に徳島大学医学部附属助産婦学校（11期生）を卒業され、母親が所長を務める永井助産院に就職されました。助産師である母親から助産の知と技と愛を学び、妊産婦や乳児、そして家族の支援者として活動され、平成5年には独立して、“いない助産所”を開設されました。その後は主に徳島県東部地域において、妊産婦・新生児委託訪問指導員・板野町母子推進委員・板野町民生児童委員・徳島県公安委員・板野町消費生活相談所の相談員・板野町介護ヘルパーと

- ### 略歴
- 昭和43年3月 徳島大学医学部附属助産婦学校卒業
 - 昭和43年4月 永井助産院(平成3年3月まで)
 - 平成5年4月 いない助産所開設
 - 平成11年4月 介護認定審査委員(平成19年9月まで)
 - 平成18年4月 日本助産師会徳島支部長(平成21年4月まで)
 - 平成20年7月 徳島県公安委員(平成22年6月まで)

- ### 受賞
- 平成16年 第48回徳島県社会福祉大会会長表彰
 - 平成20年 第52回徳島県社会福祉大会知事表彰
 - 平成21年 第38回徳島県医療功労賞
 - 平成21年 松村志保子賞
 - 平成24年 公益社団法人日本助産師会会長表彰

して独居老人訪問介護支援など多くの役割を果たされてきました。また、平成5年から現在まで板野町手話サークル会長として、聴力障害のある妊産婦の支援と後輩の指導に当たられています。さらに、日本助産師会徳島県支部長として会を引っ張り、現在もなお、徳島県委託事業の東部リーダーとしてご活躍されています。地域・社会への多大な貢献により、幾多の賞を受賞され、今なお勢力的に活動されるお姿は、地域で活躍する女性のロールモデルとなっています。





徳島大学医学部附属臨床検査技師学校 昭和62年卒業
独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院
臨床検査技師長
一般社団法人宮崎県臨床検査技師会 代表理事（会長）

花牟禮 富美雄

(はなむれ ふみお)

略歴

昭和62年4月 徳島大学医学部附属病院 中央検査部 勤務
平成2年4月 社会保険 宮崎江南病院 検査部 勤務
平成17年4月 社会保険 宮崎江南病院 検査部副技師長
平成19年4月 社会保険 宮崎江南病院 検査部技師長
平成26年4月 独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南
病院 臨床検査技師長

徳島大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業後、徳島大学医学部附属病院に勤務、その後、宮崎江南病院に勤務された。平成14年に「社会保険病院のあり方」が問題となり、病院の先行きが不安な時期もあったが、平成17年から副技師長、技師長として検査部門をまとめ、部門システムの導入、超音波検査などの業務拡大、クラウド型電子カルテの導入等に尽力された。

職域団体では、平成16年から宮崎県臨床細胞学会理事として学術活動や細胞検査士の育成に貢献され、細胞検査士会50周年記念功労賞を受賞された。また、宮崎県臨床検査技師会では、平成13年より病理細胞診研究班長、常務理事、事務局長を歴任。平成30年5月に会長に就任され、臨床検査技師の資質の向上、生涯教育、公益事業、一般社団法人化に伴う公益目的支出計画の実行に取り組まれている。

現在、2020年度日臨技九州支部医学検査学会を学会長として開催するため、実行委員とともに準備を進められている。



徳島大学医学部附属診療放射線技師学校 昭和57年卒業
徳島大学病院医療技術部診療放射線部門 部門長（技師長）

川田 直伸

(かわた なおのぶ)

略歴

昭和57年 徳島大学医学部附属病院中央放射線部 勤務
平成27年 徳島大学病院医療技術部診療放射線部門 部門長
(技師長)
徳島大学病院医療技術部 副部長
徳島大学医学部保健学科 臨床教授

昭和57年に徳島大学医学部附属診療放射線技師学校をご卒業後、同年4月に徳島大学医学部附属病院中央放射線部に就職されました。以後、放射線業務全般のモダリティ業務に従事し、特にMR検査やCT検査でご活躍され、平成27年に診療放射線部門技師長に就任されました。最近は法令改正への対応や働き方改革に取り組んでおられます。

教育では、徳島大学医学部保健学科、徳島文理大学保健福祉学部の臨床実習に長年携われ、また、徳島県消防学校の講師等も務めておられます。

対外的には、第13回中四国放射線医療技術フォーラム大会長などを務められ、現在は、JICAによる受託事業「日本モンゴル教育病院運営管理及び医療サービス提供の体制確立プロジェクト」（徳島大学と愛媛大学とコンサルティング会社共同で受託）に協力され、日本モンゴル教育病院の運営管理に助言、指導を行っておられます。本邦研修、現地研修を行い、日本式医療サービスの提供に係る組織体制の整備や運営方法を指導されています。(2017～2022年予定)

徳島大学創立70周年記念事業報告

睦眉会会長 橋本 公子

徳島大学の創立70周年記念事業は、令和元年11月2日と3日に、常三島キャンパスと蔵本キャンパス、JRホテルクレメントにおいて多くの記念行事が開催されました。

11月2日（土）には、ホームカミングデーが開かれ、事務局主催のオープニングセレモニー・記念講演会が、蔵本キャンパス内の長井記念ホールで開催されました。徳島大学交響楽団の演奏に始まり、野地澄晴学長の開会挨拶では、新製の国立大学70年のあゆみ以前の明治7年徳島師範期成学校創設から今日に至るまでの、長い歴史の上に成り立つ徳島大学についてお話しがありました。続く学長による記念講演会「人・地域をはぐくみ 未来をつくる」では、徳島大学が目指す豊かで明るい未来と、先人達が残された歴史に敬意を述べられ、これからも歩みを止めることのない輝かしい未来の構想が語られました。徳島大学の歴史の重みに同窓会の責任の重さを感じました。

第1日目の午後からは、ホームカミングデーとして各同窓会それぞれの特徴を生かしたプログラムが開催されました。睦眉会では、保健学科ならびに徳島大学病院のキャンパスツアーと講演会を行ないました。キャンパスツアーでは、保健学科の教員や徳島大学病院勤務の卒業生がガイド役となり、最新設備の整った校舎や病院を案内していただきました。卒業生は、自分達の学生時代を思い出しながらわいわいと交流を深められ、楽しいツアーとなりました。次の機会にはもっと多くの参加者で交流が深められればと思っています。

〔ホームカミングデーにおけるキャンパスツアーの様子〕



15時30分からは、青藍会・睦眉会・医学科共催による学術講演会（於：藤井節郎記念ホール）が開催されました。本学医学科卒業生である、名古屋医療センター院長の長谷川好規先生を講師にお迎えし、「徳島大学での学びと現在の私～呼吸器病研究へのいざない～」をテーマに、臨床研究の成果や最新の治療法をご講演いただきました。会場には同級生の先生方も多く笑顔のあふれた講演会となり、大変盛況でした。

〔学術講演会の様子〕



橋本会長



講師：長谷川好規先生



会場の様子

睦眉会の記念事業は上記の2つですが、翌日の11月3日（日）は、JRホテルクレメント徳島において、記念講演会、記念式典・祝賀会が開催されました。

記念講演会の演者は、日本を代表するトップアスリートを診る『腰痛』治療のスーパードクターとして、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演された、本学運動機能外科学教授の西良浩一先生と、その治療を受けられたアルピニストの野口健氏でした。定員400名に対して、1,000名と定員をはるかに超える応募があり、抽選が行われるほどとなりました。野口健氏は、エベレスト挑戦中に雪崩に遭遇し、身体に激痛を伴う障害を受けられましたが、西良教授の内視鏡手術によってお元気になられた当時のご講演がありました。医療従事者はもちろんのこと、一般参加者にも感動的な講演会であったようです。

記念講演会に続き、卒業生はじめ多数の関係者が出席する中、記念式典・祝賀会が挙行されました。式典では、ご来賓のモンゴル国立医科大学学長や大連理工大工学学長補佐の方が祝辞を述べられ、徳島大学の国際化を実感致しました。祝賀会では、創立70周年を祝う明るい雰囲気になり、中でも徳島大学栄養学連による阿波踊りは、伝統の阿波踊りの中に自分達選曲の新しいメロディを取り込み、躍動感にあふれ一糸乱れず踊る姿に感動致しました。伝統を受け継ぎつつ、新しい風を取り込むという若者ならではの魅力にあふれた阿波踊りに、新しい力を感じました。大学関係者や卒業生の間では、和やかに交流が深められ、徳島大学創立70周年記念事業は厳かかつ華やかに終了致しました。

この記念すべき事業が、新型コロナウイルス感染症に影響されなかったことに安堵しつつ、皆様にご報告をさせていただきました。

〔記念祝賀会の様子〕



栄養学連による阿波踊り



他の同窓会会長と共に

退職された先生方からのメッセージ



退職後の近況



令和2年3月末にて徳島大学を定年退職しました。看護基礎教育に携わったのは、看護学校第36期生(通算45期生)が入学した時から始まり、通算77期生が卒業する迄、徳島大学で教育を行ってまいりました。皆様の支えがあってこそ、長く務めることができました。厚くお礼申し上げます。

令和2年4月からは、縁あって四国大学看護学部看護学科に教授として教育に携わらせていただいております。しかし、着任して早々から新型コロナウイルス感染症のため、日本全国の看護大学が行っているように、遠隔授業と遠隔学内実習、臨床の場とつなぐ遠隔実習の毎日でした。遠隔実習におきまして、関わりました徳島県内の多くの施設におきましては大変お世話になっております。

振り返りますと、保健学科の前身の徳島大学医学部附属看護学校に異動したのは今から37年前ほど前になります。徳島大学医学部附属病院看護師として8年間勤務した後、母校での教員として働くこととなりました。この時には、すでに看護学校の

元徳島大大学院医歯薬学研究部 看護学系 教授
徳島大学名誉教授

田村 綾子 (徳島大学医学部附属看護学校25期生)

医療短大への準備段階にあって、短大教育に必要な教育設備・消耗品の準備、カリキュラムの計画のお手伝いに奔走していたように思います。さらに、幸運なことに14年後に保健学科看護学専攻の設置のための準備では中心となり開設に関わることができました。その当時、看護師の教育を専修学校や医療短期大学ではなく、4年制の大学で行うことが夢でしたので、その夢を実現することができましたことは、何よりうれしいことと感じております。

4年制教育の体制が整いますと、博士前期課程、博士後期課程の設立は、とんとん拍子にすすみ、今や臨地で活躍する看護職の中で、博士の学位を持つ者がいることは稀ではなくなりつつあります。「博士の学位を持つ看護師が臨床で活躍する」ことは、先人の看護教育に携わるものの夢でしたので、その希望を実現していただいた皆様に、深く感謝いたします。今後は、その博士課程で得られたエビデンスの高い看護実践の多くの知見を病に苦しむ皆様に実践していただきたいと考えます。また、この文章を読んでいる多くの皆様が、修士課程や博士後期課程に進んでいただき健康を支援する看護学の一助になるよう、頑張ってくださいたく切に希望しております。

All Roads Lead to Retirement: Then What?



On April 1, 2020, after retiring as Professor of Nursing, I was appointed special professor and Emeritus Professor of Tokushima University. With this appointment I was designated as International Coordinator, tasked with participating in enhancing activities towards the internationalization and

globalization of the university. Then the COVID 19 pandemic happened putting all domestic and international activities to a grinding halt. Nevertheless, alternative pathways to continuing internationalization activities were exercised such as sharing through educational lectures using formal platforms to undergraduate and doctoral students in ASEAN countries such as the Republic of the Philippines, Kingdom of Thailand, Republic of Indonesia, Hongkong and China. Corollary to the international coordinator role was the appointment from Chiang Mai University, Thailand, as a Visiting Professor to enhance research collaboration.

Another alternative pathway unfolded to communicate and promote the scholarly image of Tokushima University. This included collaborative research with colleagues and students from other countries producing manuscripts for publication

Professor Emeritus, Tokushima University; Professor Emeritus, Florida Atlantic University, and Visiting Professor of Chiang Mai University, Thailand

By Rozzano C. Locsin, RN; PhD, FAAN

in journals with high Impact Factor and Q1 rankings. These manuscripts focused on timely and highly sought-after topics such as AI, Natural Language Processing, Artificial Affective Communication, Artificial Compassion, and Robots and Robotics in Nursing. Co-authors hailed from Tokushima University, Chiang Mai University, University of Pittsburgh, University of Texas Medical Branch, including colleagues and graduate students from Philippine universities, such as San Beda University Manila, University of the Visayas, Silliman University, and St. Louis University. Furthering theoretical engagements in nursing ontology, nursing epistemology, and nursing praxis were highly encouraged.

While the COVID19 pandemic dampened the human spirit, resilience, and unconventional ways of engaging with people were enhanced through the marvels of technology thereby becoming a testament to the value and influence of the theory of Technological Competency as Caring in Nursing. Now, the popularity and worth of theory-based practices are made real through the utilization of advancing technologies that foster human health and well-being in the midst of ceaseless fear of being contaminated with the SARS COV 2 virus.

研究室紹介

「高精度放射線治療における最適な放射線治療計画と患者個別の線量検証における簡略化・効率化と改善に関する研究」

徳島大学大学院医歯薬学研究部放射線治療学分野 助教 佐々木幹治

放射線治療学分野では、高精度放射線治療技術をテーマとし、放射線治療技術に関する幅広い研究を行っている。放射線治療では長期間にわたり治療が実施される。そのため、治療期間中に体型の変化や腫瘍や正常組織の位置変位および変形が伴う。一般的に放射線治療では、治療開始前にCT撮影を行い、CT画像により治療計画を行う。治療計画では、腫瘍に対して高線量を照射し、正常組織に対しては極力線量を低減することが望まれる。ただし、治療計画に使用されるCT画像は多くの場合で静止画像であり、一瞬の状態しか捉えていない。従って、上記のような変化に対応した治療計画の最適化の必要性がある。過去に治療を実施した症例の治療期間中の体型の変化や腫瘍や正常組織の位置変位および変形を解析することで、新たな症例に対して適切に対応していくことが重要である。現在は、前立腺がん、頭頸部がんや子宮頸がん症例に対してデータ解析を行っている。今年度は、「子宮頸がん術後照射症例における治療期間中の体型変化に伴う照射への影響」¹⁾について国際言語論文として研究報告を実施した。

また、高精度放射線治療の一つとして挙げられる強度変調放射線治療 (intensity-modulated radiation therapy : IMRT) では、多数の施設でマルチリーフコリメータ (multi leaf collimator : MLC) によるX線の強度変調技術が利用されている。IMRTは従来の放射線治療と異なり、複雑な照射技術が用いられている。そのため、実際に患者に照射する事前に医療用直線加速装置 (linear accelerator) により、照射予定の治療計画と同一の治療計画をファントム (患者を模擬した固形物質) に照射する患者個別の線量検証が必須である。患者個別の線量検証は、全ての患者に対して実施されるべきものではあるが、現在の臨床現場は多忙を極める。従って、患者個別の線量検証の業務の簡略化・効率化と改善は必須事項である。今年度は、簡略化と効率化の一例として「頭頸部症例に対する患者個別線量検証の簡略化」²⁾について国際言語論文として研究報告を実施した。

上記の研究内容は高精度放射線治療技術の幅広いテーマのうちの一つであり、今回は紹介しきれていない内容も多数ある。我々の研究室では、毎年4~5名の学部学生と1~2名の修士課程の学生が配属されている。修士課程の学生の中には徳島大学医学部保健学科を卒業後、現場で働きながら社会人学生として入学を希望する方も多数おられる。我々の研究室では、現場で働きながら良いアイデアはあるが、研究の始め方や論文のまとめ方が分からない方や英語論文の書き方が分からない若手の診療放射線技師の方々を対象として門戸を開いております。ご興味のある方は、是非ともご連絡いただけましたら幸いです。

- 1) Sasaki M, Ikushima H. Impact of changes in body contours on radiation therapy dose distribution after uterine cervical cancer surgery. Jpn J Radiol 2020;38 (11) 1099-1107.
- 2) Sasaki M, Sugimoto W, Ikushima H. Simplification of head and neck volumetric modulated arc therapy patient-specific quality assurance, using a Delta4 PT. Rep Pract Oncol Radiother. 2020;25 (5) :793-800.



研究室の風景 (右端が筆者)

令和2年度 徳島大学睦眉会総会報告

令和2年7月29日
(みなし総会:メール会議による役員会)
参加者:32名

総会次第

- 1. 議事
 - (1) 令和元年度事業報告
 - (2) 役員会報告
 - (3) 令和元年度会計報告・会計監査報告
- 2. 議案審議
 - (1) 令和2年度事業計画案について
 - (2) 令和2年度予算案について
 - (3) 会則改正案について
 - (4) 役員改正案について



令和元年度 事業報告

- 1. 保健学科/大学院保健科学教育部 国際交流基金への寄付金贈呈
- 2. 入学式出席(会長)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成31年4月5日
- 3. 睦眉会主催 新入生歓迎昼食会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・平成31年4月5日
- 4. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター(活躍する卒業生)掲載・・・・・・・・令和元年5月、11月
- 5. 総会の開催(役員会で総会に代える)・・・・・・・・・・・・・・・・令和元年7月12日
(参加者 役員16名)
- 6. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他2名)・・・・・・・・令和元年9月19日
- 7. 徳島大学創立70周年記念事業 ホームカミングデー開催・・・・・・・・令和元年11月2日
 - 1) 本部事務局プログラム出席(蔵本キャンパス 長井記念ホール)
・オープニングセレモニー、記念講演会(野地澄晴 学長)
 - 2) 睦眉会主催 キャンパスツアー(徳島大学医学部保健学科・徳島大学病院内)(参加者 20名)
 - 3) 青藍会・睦眉会合同講演会(藤井節郎記念ホール)
・「徳島大学での学びと現在の私」
・講師:長谷川 好規 先生(名古屋医療センター院長)
- 8. 徳島大学創立70周年記念式典・祝賀会への出席(会長 他1名)・・・・・・・・令和元年11月3日
- 9. 睦眉会会報(第19号)の発行・・・・・・・・・・・・・・・・令和元年12月13日
- 10. 睦眉会同窓会会員名簿(2019年版)発行・・・・・・・・・・・・・・・・令和元年12月20日
- 11. 卒業式・医学部各賞授与式・謝恩会出席(会長他)・・・・・・・・令和2年3月23日⇒中止
- 12. 卒業・修了記念品の贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・令和2年3月23日
- 13. 退職教員記念品贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・令和2年3月

役員会報告

1. 役員会開催状況(平成31年4月～令和2年7月)

年度	回数	開催日	場所	参加人数
R. 元	1回	令和元年5月29日(水)	医学部第二会議室	23名
	2回	総会開催(役員会) 令和元年7月12日(金)	医学部第二会議室	16名
	3回	令和元年10月24日(木)	医学部第二会議室	23名
	4回	令和2年2月6日(木)	医学部第二会議室	19名
R. 2	1回	令和2年4月8日(水)	メール会議	26名
	2回	総会開催(役員会) 令和2年7月29日(水)	メール会議	32名

2. 各種委員会開催状況

委員会名	開催日	場所	参加人数	
会報委員会	1回	令和元年8月19日(月)	医学部第五会議室	11名
	2回	令和元年10月1日(火)	医学部第五会議室	11名
	3回	令和元年10月24日(木)	医学部第二会議室	10名
	4回	令和元年11月12日(火)	睦眉会事務局	5名
学術・名簿委員会	1回	令和元年7月8日(月)	(保)B-31セミナー室	10名
	2回	令和元年7月26日(金)	(保)C-12講義室	10名
	3回	令和元年10月24日(木)	医学部第二会議室	9名
ホームページ委員会	随時		4名	

3. 役員会・委員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会・講演会について
- 2) 睦眉会役員改選について
- 3) 睦眉会会則の改正について
- 4) 睦眉会会報の発行について
- 5) 睦眉会同窓会名簿発行について
- 6) 睦眉会の役員の委員会活動について
- 7) 徳島大学同窓会連合会への協力について
- 8) 徳島大学創立70周年事業への協力、ホームカミングデーについて
- 9) 保健学科・保健科学教育部国際交流基金への寄付金贈呈について
- 10) 新入生歓迎昼食会開催について
- 11) 卒業・修了記念品について

* 以上の、令和元年度事業報告、役員会報告は、すべて承認された。

● **令和元年度 睦眉会会計報告** (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

【収入の部】	項目	金額
	本部会費 (135名分)	2,700,000
	貯金利子	17
	繰越金	3,637,317
	収入合計	6,337,334

【支出の部】	項目	金額
	総会費用	20,652
	印刷費・送料 (会報代を含む)	1,480,573
	会議費	291,827
	慶弔費 (入学・卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	473,579
	保健学科/保健科学教育部の国際交流基金への寄付金	100,000
	徳島大学創立70周年記念事業への寄付金	500,000
	パソコン関係費用	130,248
	会報委員会活動費用	45,201
	事務局運営費	200,000
	雑費	12,770
	支出小計	3,254,850
	予備費	3,082,484
	支出合計	6,337,334

【収支決算の部】	総収入額	総支出額	次年度繰越額
	6,337,334	3,254,850	3,082,484

会計監査報告

令和元年度の会計報告書を監査いたしました。

会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。

令和2年3月31日 会計 竹林 桂子

令和2年6月25日 監事 中道 玲子
吉田知位子

* 以上の、令和元年度会計報告は、すべて承認された。

● **令和2年度 睦眉会予算** (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

【収入の部】	項目	金額
	本部会費 (143名分)	2,860,000
	貯金利子	100
	前年度繰越金	3,082,484
	収入合計	5,942,584

【支出の部】	項目	金額
	印刷費・送料 (会報代を含む)	1,500,000
	会議費	300,000
	慶弔費 (卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	500,000
	会報委員会活動費用	50,000
	事務局運営費	200,000
	雑費	30,000
	支出小計	2,580,000
	予備費	3,362,584
	支出合計	5,942,584

● **令和2年度 事業計画**

1. 入学式出席(会長) 令和2年4月6日 ⇒中止
2. 新入生歓迎昼食会の開催 令和2年4月6日 ⇒中止
3. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター(活躍する卒業生)掲載 令和2年6月、11月
4. 令和2年度睦眉会総会・講演会の開催 令和2年7月12日 ⇒中止
令和2年度睦眉会総会(役員会で代える)の開催 令和2年7月29日
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長他) 令和2年10月15日 ⇒オンラインに変更
6. 徳島大学同窓会連合会交流会「近畿びざん会」への出席 令和2年11月1日 ⇒オンラインに変更
7. 睦眉会会報(第20号)の発行 令和2年12月頃 ⇒令和3年3月に変更
8. 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長他) 令和3年3月23日
9. 卒業・修了記念品の贈呈 令和3年3月23日

* 以上の、令和2年度事業計画案、予算案は、すべて提案通り可決された。

徳島大学睦眉会会則 改正

(改正箇所は朱書き部分)



第 1 章 名 称

第 1 条 本会は、徳島大学睦眉会と称し、事務局を徳島大学医学部保健学科内に置く。

第 2 章 目 的

第 2 条 本会は、会員相互の親睦及び母校の発展を図り、もって、保健医療の向上に寄与することを目的とする。

第 3 章 事 業

第 3 条 本会は、次の各号に掲げる事業を行う。
一 母校との連絡及び母校の振興に関すること。
二 会誌及び会員名簿の発行
三 会員の親睦及び互助に関すること。
四 その他本会の目的を達成するために必要な事業

第 4 章 会 員

第 4 条 本会は、正会員、準会員及び特別会員をもって組織する。
2 正会員は、次の各号に掲げる者とする。
一 徳島大学大学院保健科学教育部修了生
二 徳島大学助産学専攻科修了生
三 徳島大学医学部保健学科卒業生
四 徳島大学医療技術短期大学部卒業生
五 徳島大学医療技術短期大学部専攻科修了生
六 徳島大学医学部附属看護学校卒業生
七 徳島大学医学部厚生女学部卒業生
八 徳島医科大学厚生女学部卒業生
九 徳島医科大学附属病院看護婦養成所卒業生
十 徳島医学専門学校附属医院看護婦養成所卒業生
十一 徳島県立徳島医学専門学校附属医院看護婦養成所卒業生
十二 徳島大学医学部附属診療放射線技師学校卒業生
十三 徳島大学医学部附属診療エックス線技師学校卒業生
十四 徳島大学医学部附属臨床検査技師学校卒業生
十五 徳島大学医学部附属衛生検査技師学校卒業生
十六 徳島大学医学部附属助産婦学校卒業生
十七 第一号から第十六号に掲げる学校又は養成所に在学していた者で役員会が推薦した者
3 準会員は、次の各号に掲げる者とする。
一 徳島大学医学部保健学科在学学生
二 徳島大学大学院保健科学教育部在学学生
4 特別会員は、徳島大学大学院医歯薬学研究部保健学域の教員、及び第 2 項各号に掲げる学校又は養成所の旧教員、その他、旧職員のうち役員会が推薦した者とする。

第 5 章 役 員

第 5 条 本会に、次の役員を置く。
名誉会長 1 名
会 長 1 名
副 会 長 4 名
理 事 若干名
監 事 2 名
第 6 条 役員の仕事は、次の各号に掲げるとおりとする。
一 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
三 理事は、会員を代表し、会務を審議し、決定する。
四 監事は、事務の管理執行を監査する。
第 7 条 役員は、次の各号に掲げるとおりとする。
一 名誉会長は、徳島大学医学部保健学科長の職にある者をもって充てる。
二 会長、副会長、理事及び監事は、役員または正会員のうちから選出する。
第 8 条 役員の仕事は、2 年とし、再任を妨げない。
2 会長の任期は、原則として連続 3 期までとする。

第 9 条 役員は、任期が満了した場合においても、原則として後任者が決定するまでは、引き続きその職務を行うものとする。
第 10 条 本会には、アドバイザー 1 名を置くことができる。
2 アドバイザーは、前会長が務め、任期は 2 年、1 期までとする。

第 6 章 会 議

第 11 条 本会は、毎年 1 回、総会を開くものとする。ただし、役員会をもって総会に代えることができる。この場合においては、必要に応じて、その結果を会員に報告するものとする。
2 総会は、会長が招集する。
第 12 条 総会は、次の各号に掲げる事項を審議し、決定する。
一 事業計画
二 予算及び決算
三 役員を選出
四 会則の改廃
五 その他本会に関する重要な事項
第 13 条 総会の議事は、出席者の過半数の賛成で決する。
第 14 条 役員会は、必要に応じて、会長が招集する。
第 15 条 役員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、決定する。
一 総会に提出する議案
二 事業計画案
三 予算案及び決算案
四 会誌及び会員名簿の発行
五 その他本会に関する重要な事項
第 16 条 役員会は、役員過半数（委任状を含む）の出席で成立し、議事は出席者の過半数の賛成で決する。

第 7 章 支 部

第 17 条 本会には、必要に応じて支部を置くことができる。
第 18 条 支部に関する事項は、本会に報告するものとする。
第 19 条 各支部の運営に関する規定は別に定め、当該支部において行う。

第 8 章 会 計

第 20 条 本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもって充てる。
第 21 条 会費は、本部会費 20,000 円を準会員が終身会費として、入学手続時に納入するものとする。ただし、入学生のうち、本学出身者で、すでに正会員となっている場合は、これを免除する。
2 第 17 条による支部の支部会費は、当該支部の定めるところによる。
第 22 条 既納の会費は、返還しない。
第 23 条 決算は、監事による監査を受けて役員会の承認を得るものとする。
第 24 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

第 9 章 雑 則

第 25 条 この会則の改廃は、総会において出席者の過半数の賛成を得なければならない。

附 則

この会則は、平成 8 年 1 月 20 日から施行する。
この会則は、平成 13 年 10 月 1 日から施行する。
この会則は、平成 16 年 1 月 1 日から施行する。
この会則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
この会則は、平成 20 年 7 月 1 日から施行する。
この会則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
この会則は、平成 30 年 7 月 1 日から施行する。
この会則は、令和 2 年 7 月 29 日から施行する。

*以上の、会則改正案は、すべて提案通り可決された。

令和2・3年度 睦眉会新役員

(2020年7月29日～)

役 職		氏 名	所 属	勤 務 先
名誉会長		安 井 敏 之	学科長	徳島大学医学部保健学科長 (徳島大学大学院医歯薬学研究部)
会 長		橋 本 公 子	助	ウェルネス橋本助産所
副会長		井 口 和 子	看	徳島大学病院
		川 田 直 伸	放	徳島大学病院
		江 原 隆	検	徳島県立中央病院
		後 藤 さおり	助	徳島大学病院
理 事	事務局	梅 野 真由美	検	
		富 永 辰 也	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部
	総 務	佐々木 幹 治	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		桑 村 由 美	看	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		富 永 正 英	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		安 藝 健 作	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部
理 事		葉 久 真 理	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		佐 藤 ゆかり	看	徳島大学病院
		尾 形 美 子		徳島大学病院
		米 田 好 美		四国大学看護学部
		岩 野 朝 香		徳島大学病院
		千 葉 進 一		徳島大学大学院医歯薬学研究部
		板 東 孝 枝		徳島大学大学院医歯薬学研究部
		栗 本 佐知子		四国大学看護学部
		天 野 雅 史	放	徳島大学病院
		山 田 健 二		徳島大学病院
		七 條 光 則		徳島県立中央病院
		佐 藤 雅 美	検	徳島大学病院
		岡 本 充 栄		徳島保健所
		立 岩 真 紀		徳島県立中央病院
近 藤 彩	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部		
立 尾 浩 美		徳島大学病院		
監 事		中 道 玲 子	助	
		森 さゆり	検	徳島大学病院

* 令和2・3年度 役員改正案は、すべて提案通り可決された。

編集後記

皆様お元気でお過ごしでしょうか。今年度はコロナ禍の影響で、会報の発行が遅れましたが、無事発行することができました。ご協力ありがとうございました。

今年はコロナ感染症のため、日常生活は勿論のこと、仕事や学習の仕方もずいぶん変化がありました。保健学科の先生方におかれましては、学生の学習・実習環境の整備など、本当に大変だったと思います。オンラインでの学習も、新しい方法だと思いました。まだまだコロナ禍の影響は続くことでしょう。これからも、皆で協力し、い

ろいろな工夫をしながらこの難局を乗り越えていくのだと考えると、人の力は素晴らしいと実感します。

また、うれしいニュースもありました。先日、徳島ヴォルティスのJ1昇格が決定しました。サッカーなどあまり知らない私ですが、つい「にわかサッカーファン」となり歡喜しました。日々楽しいことを見つげながら過ごしています。会員の皆様においても今後も健康に留意しお過ごしください。

睦眉会会報委員 岩野 朝香



徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報ならびに本学HP (<https://www.tokushima-u.ac.jp/>) をご覧ください。

また、徳島大学同窓会連合会のFacebook (<https://www.facebook.com/bizankai/>) を開設しました。徳島大学の情報をよりリアルタイムでお届けします。ぜひ、「いいね!」をよろしくお願いします。

Face book



1 徳島大学公開シンポジウム「SDGsの達成に向けて」を開催

本シンポジウムは、世界的戦略課題であるSDGs達成に向けて、本学の活動や関係企業の取組を紹介し、意見交換を行うもので、会場の長井記念ホールとZoomによるオンラインで約100名が参加しました。

パネリストは、徳島大学から3名の教員、2名の学部学生、企業からも業種を越えた3名の方をお迎えし、それぞれのゴールに向けた取組をお話いただいた後、活発な意見交換がありました。

2 大鵬薬品工業株式会社と基礎研究に関する協定書について、調印式を行いました。

大鵬薬品工業株式会社と本学は、平成16年度に「国立大学法人徳島大学と大鵬薬品工業株式会社との包括的研究連携に関する協定」を締結。また、平成26年度には、「国立大学法人徳島大学と大鵬薬品工業株式会社との基礎研究に関する協定」を締結し、同社の支援により、がん関連分野の先進的基礎研究拠点の構築と研究振興を目指して活動を進めてきましたが、来年3月31日で協定の満了を迎えることから、引き続き連携研究活動を実施することを目的として3年延長の覚書を締結しました。

調印式では、大鵬薬品工業株式会社の小林将之代表取締役社長と野地学長との間で調印が行われ、相互の協力と支援を約束しました。今後も、がん関連分野の基礎研究の進歩に大きく貢献することが期待されます。

3 徳島大学先端酵素学研究所と自然科学研究機構基礎生物学研究所が連携協定を締結

本協定は、両研究所の医科学及び基礎生物学に関する研究分野において、相互に連携し国際水準の先端研究を先導する研究教育拠点としての活動を推進することにより、その成果を双方の研究に活かすとともに、全国的な共同利用・共同研究拠点の支援基盤強化ならびに国際的な学術交流の活性化に寄与することを目的としています。

2つの研究所が進めるアプローチは、「生命の基盤的原理の理解」という共通の目標に対して補完的であり、連携を結ぶことで、多くの研究が相乗的に発展できるものと期待しています。

なお、今回の協定締結式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、インターネット上で愛知県岡崎市と徳島を繋ぎ、リモートで執り行われました。

4 生物資源産業学部農場で生産されたハムが石井町ふるさと納税返礼品になりました

生物資源産業学部農場で生産されたハムが石井町ふるさと納税返礼品として、11月30日からふるさとチョイスに、12月中旬頃から楽天ふるさと納税へ掲載されます。

農場で育てた豚を原料に、じっくり時間をかけて“熟成ロースハム”にしました。豚舎のスペースや飼育期間などから、1年に300個程度の限定となります。

徳島大学基金へのご協力をお願い

「徳島大学基金」は、皆さまから事業区分ごとにご支援いただいた寄附金を基金として積み立て、徳島大学の教育研究等の発展のために使用させていただくものです。平成28年にリニューアルし、webサイトからクレジットカードやコンビニを利用したお申し込みも可能となりました。また、古本の買取額を募金していただく取組も行っています。

詳しくは徳島大学基金ホームページ (<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/>) をご覧ください。

■基金に関するお問合せ

徳島大学基金事務局(担当:総務部同窓生・基金室) 電話 088-656-9981

■申込手続き、税制上の優遇措置に関するお問合せ

徳島大学財務部資産管理課 電話 088-656-7037



徳島大学基金

検索